

# 豊橋市

## 男女共同参画に関する市民意識調査

### 調査結果報告書 概要版

豊橋市では、男女がそれぞれの個性と能力を十分に発揮し、いきいきと暮らすことができる男女共同参画社会の実現をめざし、様々な施策を推進しています。この冊子では、男女共同参画に関する市民の意識を把握するために実施したアンケート調査の主な結果について紹介します。

#### 《調査の概要》

- 調査目的：本調査は、社会情勢の変化に対応した効果的な施策を展開するため、市民の男女共同参画に関する意識やニーズを把握する目的で実施しました。
- 調査対象：豊橋市在住の20歳以上の男女
- 調査人数：男女各1,500人 合計3,000人
- 有効回収：874票（29.1%）
- 抽出方法：無作為抽出
- 調査時期：令和元年8月

豊橋市 市民協働推進課

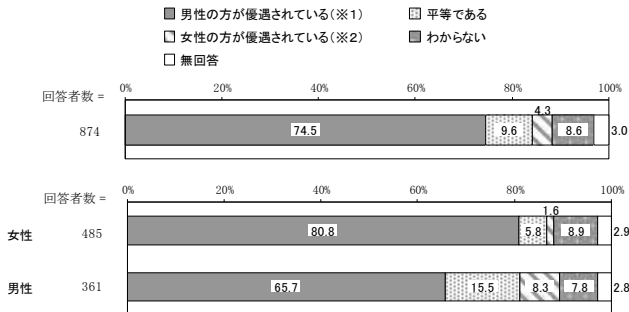
TEL：0532-51-2188

令和2年3月発行

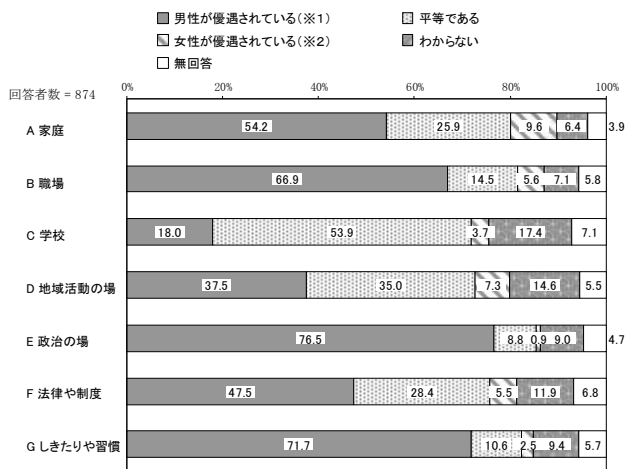
## 社会全体の男女の地位評価

- 社会全体でみた男女の地位の平等感についてたずねたところ、約7割の人が「男性の方が優遇されている」と答えており、その割合は男性よりも女性で高くなっています。
- 場面及び分野別でみると、『学校』では5割以上の方が、『地域活動の場』では3割以上の方が「平等」と答えています。

### 社会全体



### 場面及び分野別

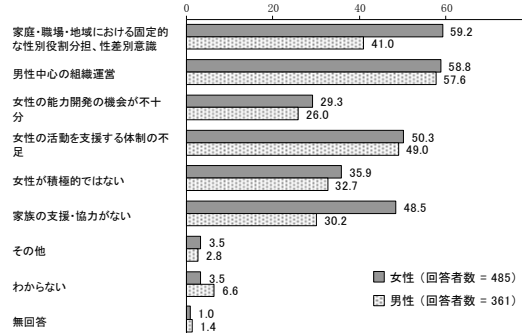


※1：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計

※2：「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計

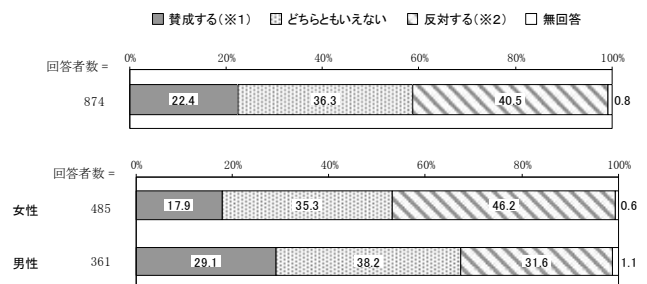
## 政策や方針決定の場への女性の参画状況が男性よりも低い理由

- 政策や方針決定の場への女性の参画状況が男性よりも低い理由を複数選択でたずねたところ、「男性中心の組織運営」の割合が最も高く、次いで「家庭・職場・地域における固定的な性別役割分担、性差別意識」、「女性の活動を支援する体制の不足」の割合が高くなっています。



## 性別役割分担意識

- 「男は仕事、女は家庭」という考え方については、約4割の人が「反対する」と答えています。
- 男女別でみると、女性に比べ、男性で「賛成する」の割合が高くなっています。

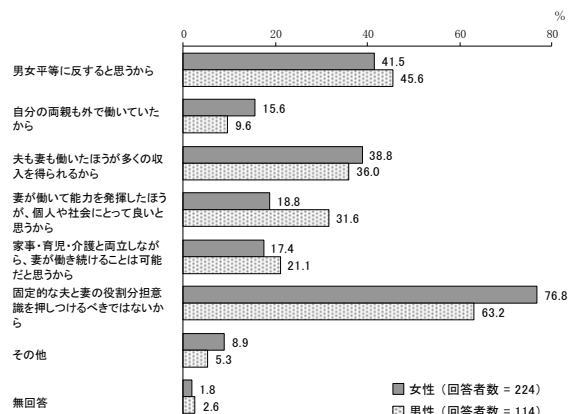


※1：「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」の計

※2：「どちらかといえば反対する」と「反対する」の計

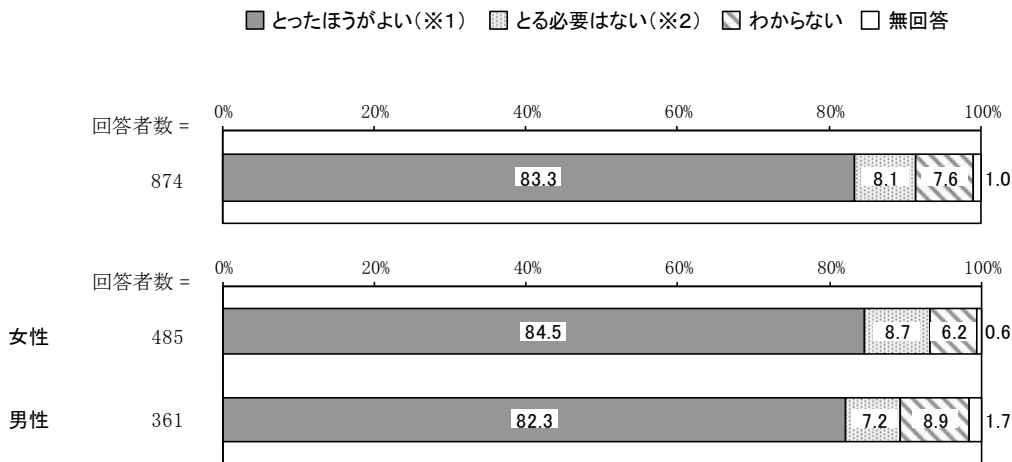
## 性別役割分担意識に反対する理由

- 「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対する理由について複数選択でたずねたところ、「固定的な夫と妻の役割分担意識を押しつけるべきではないから」の割合が最も高くなっています。



## 男性が育児や介護で休みをとることについての考え方

- 男性が育児や介護で休みをとることについては、約8割の人が「とったほうがよい」と回答しています。

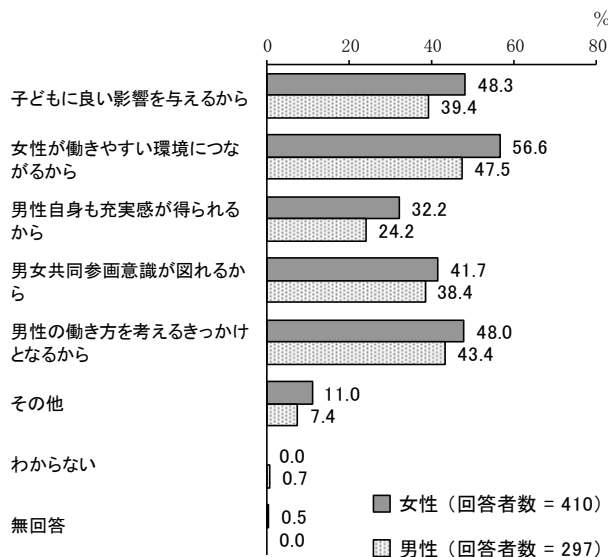


※1：「積極的にとったほうがよい」と「どちらかという、とったほうがよい」の計

※2：「どちらかという、とる必要はない」と「とる必要はない」の計

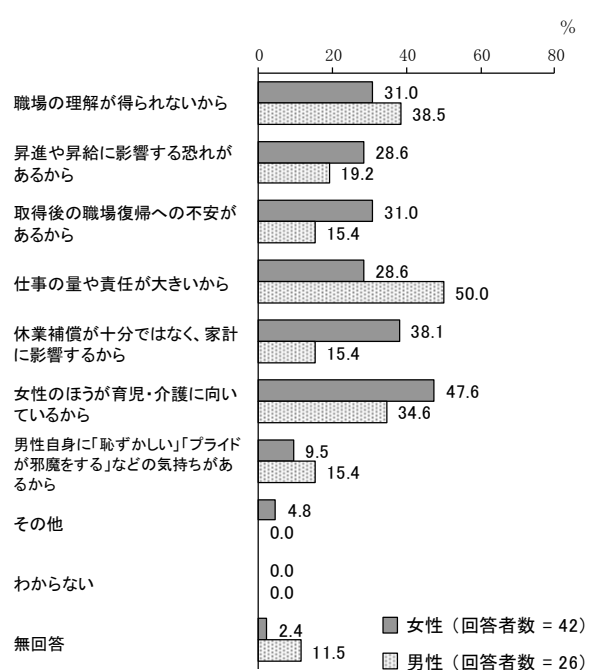
### 男性が育児や介護で休みをとったほうがよい理由

- 男性が育児や介護で休みをとったほうがよい理由を複数選択でたずねたところ、「女性が働きやすい環境につながるから」の割合が最も高くなっています。



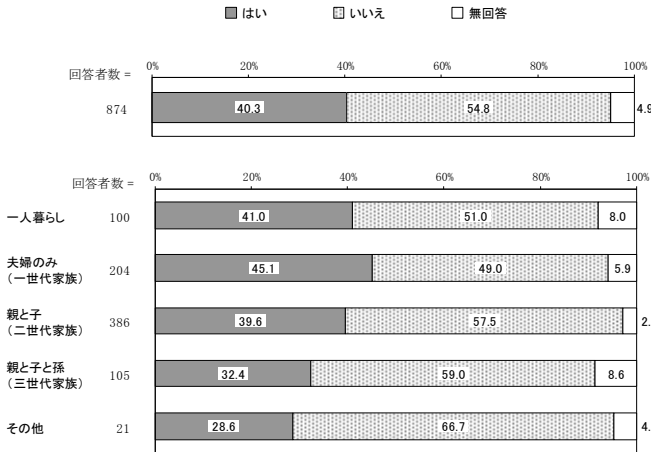
### 男性が育児や介護で休みをとらないほうがよい理由

- 男性が育児や介護で休みをとらないほうがよい理由を複数選択でたずねたところ、「女性のほうが育児・介護に向いているから」の割合が最も高くなっています。



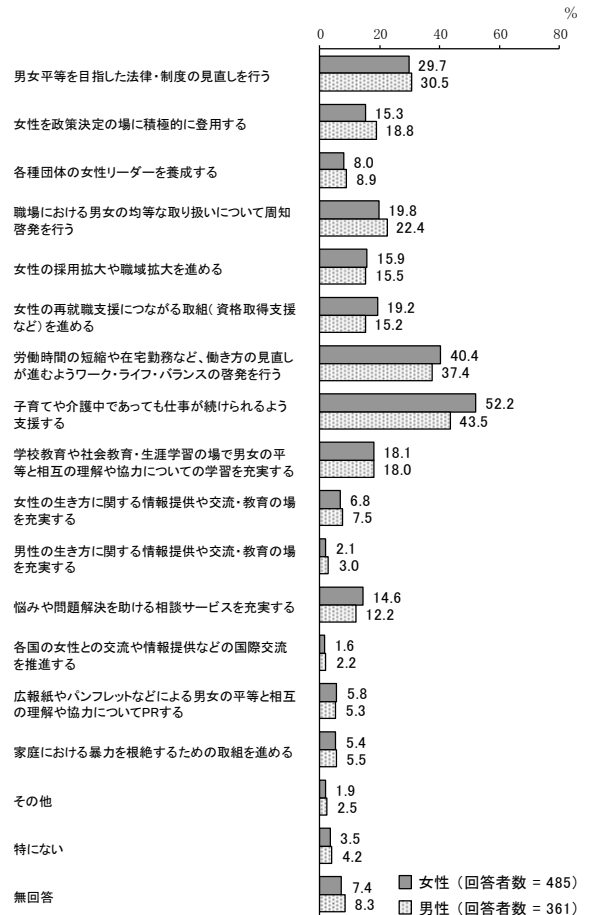
## 家庭での男女共同参画意識の有無

- 家庭での男女共同参画意識の有無についてたずねたところ、約5割の人が意識を持っているかに「いいえ」と回答しています。
- 家族構成別でみると、他に比べ、夫婦のみ（一世代家族）で「はい」の割合が高くなっています。また、親と子と孫（三世代家族）で「いいえ」の割合が高くなっています。



## 男女共同参画社会実現のために行政に望むこと

- 男女共同参画社会実現のために力を入れるべきことを3つたずねたところ、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」の割合が最も高く、次いで「労働時間の短縮や在宅勤務など、働き方の見直しが進むようワーク・ライフ・バランスの啓発を行う」、「男女平等を目指した法律・制度の見直しを行う」の割合が高くなっています。



## 配偶者等からの暴力

- これまでに配偶者や交際相手から暴力（DV）を受けた経験があるかをたずねたところ、何らかの暴力を受けたことがある人は女性では4人に1人、男性では10人に1人の割合となっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	暴力を受けた	命の危険を感じるくらいの暴力を受けた	医師の治療が必要となる程度の暴力を受けた	強要された	いやがっているのに性的な行為を	ポルノ雑誌を見せられた	見たくないのに、ポルノビデオや	何を言っても無視され続けた	交友関係や電話を細かく監視された	「かいいいようなし」などと言われた	「だれのおかげで生活できるんだ」吐かれたりした	大声でどなられたり、暴言を吐かれたりした	生活費をわたさないなど、経済的におさえつけられた	今までなかった	無回答	受けたことがある(※)
女性	485	2.3	3.3	5.8	1.4	3.3	5.2	6.8	19.0	5.4	69.9	4.3	25.8				
男性	361	—	0.6	0.3	0.3	4.4	1.4	2.5	4.4	1.4	82.3	8.0	9.7				

※全体から「今までなかった」と「無回答」を除いた割合